

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

先週の「開倫塾の時間」では、北海道の夕張市の御報告をさせていただきました。夕張市は本当に頑張っていますので、皆様も是非夕張市に行っていただきたいと思います。また、夕張市のように自治体破綻にならないようにするにはどうしたらよいかを考えていただきたいと思います。

さて、今日はガラッと変わりました。私の知り合いの戸塚隆将さんがお書きになった「世界のエリートはなぜ、『この基本』を大事にするのか？」という本の内容を少し紹介させていただきます。戸塚さんとは東京にある経済同友会でよく御一緒させていただいています。非常に優秀な方であると前から存じ上げていたのですが、これほどいろいろなこととお考えになっているとは知りませんでした。その本を本屋さんで見つけて読ませていただき、非常に感銘を受けました。朝日新聞の出版局から出ている本で、題名にあるように「世界のエリートはなぜ、『この基本』を大事にするのか？」ということが48項目書いてあります。これから、そのうちの3つの項目についてお話をさせていただきます。

まずは、英語についてです。英語はペラペラ話すよりも、論理コミュニケーション力のほうが大事だということです。英語は世界の共通語ということでも大切にされています。その英語をペラペラと話すことも大事かもしれませんが、それよりも次に紹介するような3つの特色を備えた英語でもよいのではないかとということです。英語を使わなければ仕事ができない業種に就かれる方にとっては、

英語は本当に必要です。そのとき、日本語のアクセントがなかなか抜けないのは、仕方がないからあまり気にしなくてよい。気にしたほうがよいのは、L と R の発音など英語の発音として決定的に重要な区別で、この区別だけはしたほうがよいというのが1つ目です。2つ目は、英語の4つのスキルである「読む」「書く」「聞く」「話す」の基礎をととても大事にして、それらの基礎をしっかりとしておいたほうがよいということです。英語で大事なのは、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4つです。ペラペラと話すことも大事ですが、きちんと読むことができる・書くことができる・聞くことができる・話すことができるという4つのスキルも大事にしようということです。3つ目は、論理的に堂々とコミュニケーションする・意思の疎通をすることが大事だということです。自分の英語力に自信がないからといって躊躇している、タジタジしている余裕はありませんので、日本語のアクセントは残るもののしっかりと文法で論理的に堂々と発信することが求められる。つまり、グローバルに評価されるプロフェッショナルというものは、論理的かつ堂々と自己主張するスキルが高いということです。総合的な英語の基礎力向上を目指すにはペラペラ意識から解放されることが大切であるということ、戸塚さんはおっしゃっています。これが1つ目の項目の内容です。

次に、2つ目の項目の内容を紹介します。それは、「after you」といいますか、エレベーターにどなたか一緒に乗る場合などには、「どうぞお先に」と他人を先に下ろしたり、乗っていただいたりするような余裕を持つことが大事だということです。心に余裕があると、行動にも余裕が生まれます。行動に余裕があれば、逆に心にも余裕が生み出されます。戸塚さんはハーバード大学を出られたようですが、ハーバード大学の学生は、どんな団体に行ったときでも、パーティがあったときでも、そのほかのいろいろなときでも、エレベーターに乗降する場合や同じドアで出入りをする場合でも、必ず「after you」（あなたのあとに私は行きます）と見事なまでに自然体で相手に先を譲ります。それから、ビュッフェ形式の食堂でパンやスープを盛りつけるとき、寮の扉を開けるとき、クラスルームの席に出入りするとき、売店のレジに並ぶとき、駐車場に続くエレベーターで擦れ違うときなど、男性が女性にのみ譲るレディファーストだけではなく、同性同士でも異性の間でも「after you」が頻繁に見られるそうです。ハーバード大学で一番よく見られたのは、「after you」の精神が徹底されていることです。それは何故かといいますと、小さい頃から譲り合いの精神が家庭教育で徹底的に教え込まれて

いるからである、競争意識の激しいアメリカ社会だからこそ競争に一定のルールが設けられているのだと、戸塚さんは解釈なされているようです。民族や人種、出身地、母国語などが異なっている社会においては、同じ民族間の暗黙の常識というものがないので、わかりやすいルールが生まれる。そのルールの一つとして、「after you」（あなたのあとに私は行きます）という暗黙のルールがアメリカのエリート社会では明確化しているということです。譲り合いで気を付けたいことは、「after you」（あなたのあとに私がいけます）という考え方は、男性・女性の区別なく実行することだと戸塚さんは言っています。また、男性と女性とが譲り合う場合はどうするか。もちろん男性が女性に譲るべきですが、そのときは女性も素直に譲られたほうがスマートだということです。

次は、3つ目の項目の内容です。それは、「すみません」よりも「ありがとう」を伝えたほうがよいということです。日本人はよく「すみません、すみません、すみません、すみません」と言いますが、よく分析してみると、日本人の「すみません」の中には「ありがとう」という意味合いが含まれていて、戸塚さんの考えでは感覚的には日本人が日頃口にする「すみません」のうちの8割から9割は感謝の意味を占めているとのこと。贖罪といいますか、「申しわけなかった」と罪を償う意味での「すみません」は1割か2割に満たないと考えられるそうです。そうであるならば、初めから「thank you」という形で「ありがとうございます」と言ったほうがよいと戸塚さんは述べています。

ハーバード大学の学生は「ありがとう」を頻繁に口にします。thank you、あるいは thanks、時には、少し難しい表現ですが「I appreciate it」という丁寧な表現もします。一方で、「excuse me」や「I'm sorry」（すみませんでした）という言葉を使うのは謝罪のときだけで、アメリカ人はなかなか謝罪を口にしないと言われています。しかし、ハーバード大学の学生は皆謝るべきときは素直に謝る。素直に謝れるということは自信の表れであるとしています。けれども、「ありがとう」と言うのなら最初から thank you とか thanks と言ったほうがよいということが本の中には書かれています。

今日は、私の知り合いの戸塚隆将さんが書かれて、朝日新聞の出版局が8月30日に出した「世界のエリートはなぜ、『この基本』を大事にするのか？」という本が本屋さんにありますので、読ませていただいて、さわりのところだけをお話いたしました。皆さんはどのようにお考えでしょうか。